

第11回原子力保全改革検証委員会で いただいた意見への対応状況について

平成21年4月17日
関西電力株式会社

第11回 原子力保全改革検証委員会で頂いた意見への対応状況

平成21年4月17日

分類	意見	対応状況
安全文化評価の実施状況	安全文化の醸成活動は日本では関西電力がリードしてほしい。時期が来たら関西電力の取組みをIAEAにアピールすればよいと思う。これがスタンダードとなって世界に広まることを期待したい。	H21年1月から2月に、美浜発電所のOSART(国際原子力機関の運転安全調査団)による現地調査において安全文化評価の説明を行い、良好事例として高い評価を受けました。 今後も、社外に対して適宜機会を捉え、情報発信を行っていきます。
	安全文化の醸成活動は関西電力の活動ではあるが、このような活動を通じて学んだことを広く発信をしていただくと日本全体の安全の基盤強化にも繋がっていくと思う。そのような視点を是非持っていただきたい。	安全文化評価の枠組みや方法は、一般的な知見を踏まえながら、当社として自律的に取り組んでいる活動であり、社外に対しても適宜機会を捉え、情報発信を行っていきます。
	発電所では協力会社を含めて安全文化の醸成活動を行うことが重要であり、美浜発電所で協力会社と一緒に安全文化について議論し、その醸成状況を評価しようとしているところは評価できる。今後、各発電所でうまくいった取組みがあれば、他の発電所への展開を検討してはどうか。	安全文化醸成活動にかかる各発電所での取組みについては、良好事例を抽出するとともに、当該発電所の評価も踏まえ、水平展開の要否を検討した結果、美浜発電所における協力会社の参加については、他発電所でも実施する方向で調整を行っています。
	現場の自律的な取組みを重視しているが、現場の人たちが他の現場の人たちの色々なものを参考にする場があれば、もっと意見交換ができ、自分たちで交流していけるかもしれない。安全文化を定着させるためには、現場レベルでのそういう仕組みを作ることも検討してほしい。	発電所間の意見交換については、現時点においても事務局レベルの打ち合わせや原子力安全文化推進WG、原子力安全文化推進委員会の場で行っています。これに加えて、担当者会議、係長会議、課長会議、室長会議などのレベル毎の意見交換の場も、適宜設けています。また、安全文化醸成活動に関するデータベースを構築し、各発電所の安全文化醸成計画や各種会議資料等を誰もが入手できるようにしています。こういった活動を継続していくことにより、意見交換がより活発になるよう取り組んでいきます。
	安全文化評価の枠組みに関しては、現在設定されている枠組みにこだわることなく、新委員からもう少し違った角度での意見が出てくれば、それも織り込んだ枠組みで、検証していくことも必要だと思う。	評価の枠組みは、H19年度に試行した結果、有効性が認められたことから、H20年度はこれを発電所まで拡大した取組みとして行っているものです。新委員からのご意見については、H21年度活動計画の策定等に反映していきます。
重点施策の実施状況	「ポジティブ情報のより積極的な発信」として、「越前若狭のふれあい」に安全文化に関する記事の掲載があるが、字数が多すぎると思う。色々なことを言いたいという気持ちはわかるが、あまりにも真面目に盛りだくさんに記載しているように思う。	ご指摘の点を踏まえ、読みやすさ、わかりやすさに、より留意した情報発信に努めています。
	経験の浅い作業員や若年層への教育については、世代間のギャップといったこともあるので、作業責任者等、指導する立場の人に対して、指導の方法やコミュニケーションの仕方などについて示していくことも大切である。	ご指摘の点を踏まえ、教えられる側だけではなく教える側にも留意した育成に取り組んでいきます。 具体的には、H21年度原子力部門人材育成計画の部門重点実施内容の一つとして、中堅およびベテラン層支援を掲げ、育成意識の強化等に取り組むこととしています。
	全体的に計画や実施内容はしっかりしているが、その進捗状況について見えるようにして皆で共有しあうところが弱い気がする。	ご指摘の点を踏まえ、進捗状況について見えるようにし、取組み状況については、安全文化醸成活動に関するデータベースで情報共有しています。
	「ポジティブ情報のより積極的な発信」に関連して、今は世界的にも原子力に追い風が吹いており、原子力に関する情報が求められているという状況を踏まえれば、原子力に夢を持たせるような広報が必要であると思う。	社外への情報発信にあたっては、当社の情報のみならず、引き続き、エネルギーセキュリティ、地球環境といった観点から原子力発電のメリットについても、広報していきます。